

最新事情

ビジネス系検定で
教養教育を充実させる

堺女子短期大学

(大阪府堺市)

堺女子短期大学では美容や保育のスペシャリストを目指す学生が、日々、専門スキルの習得に励んでいる。「専門教育だけではなく、短期大学ならではの教育を」と考える同学は、**教養教育**にも重きを置く。専門教育と教養教育の両立はどのようにして成り立つのか。その教育内容についてお聞きした。

専門教育と教養教育で、 女性の『生きる力』を育てる

堺女子短期大学がある堺市は仁徳天皇陵をはじめとする古墳群が存在する町として知られている。同学の母体である愛泉学園は大正11(1922)年に設立され、創立90周年を迎えた。以来、女子教育を貫く歴史ある学園だ。

「私たちは、女性の生きる力を育てる」ことをテーマに女子教育を行ってきました。それは愛泉学園の教育理念でもある『教養豊かな自立的人間の育成』にもつながるものと考えています。だからこ



堺女子短期大学校舎



重山香苗学長

そ、単にスキルを身に付けさせるだけではなく、幅広い視野を持たせ、就職してからも活躍し自立できる女性を育てたいのです」と重山香苗学長は語る。

社会で活躍できる人材を育成するため、同学は二つの教育に重点を置いている。

まず一つは専門教育。即戦力となる人材を育成するため、専門的なスキルを身に付けさせることが目的だ。「ビューティーマイク」「美容文化」「舞台芸術」「保育士」の全4コースはいずれも女性の感性を最大限に生かせる分野であり、約300人の学生がそれぞれの場所で、メイクアップアーティスト、ネイリスト、美容師や保育士などを目指し、技術習得に励んでいる。

そして、二つ目が教養教育である。同学の教養科目は一般常識から伝統文化・芸術・情報処理まで、その内容は幅広い。

重山学長は、教養教育を重視する理由を三つ挙げる。

「一つは、専門学校との差別化を図るためです。専門スキルを習得しながら、教養も身に付けることができる、それが本学の強みでもあります。二つ目は、就職対策のため。就職や専門資格の試験でも一般常識の筆記試験は必須だからです。また2年間を通して社会についての視野を広げることは、卒業後に必ず役に立ちます。そして、三つ目は、一人前の社会人としての考え方や振る舞いを身に付けるためです。私たちは、マナーも教養の一つだと考え、重視し

ライフデザイン演習の授業では
さまざまな資格に挑戦する



太田慶子先生

資格で証明する 社会人の基礎力

ています。本学の卒業生は接客等の現場に就職する者も多く、そこでは正しい言葉遣いやきちんとした対応が求められているからです。

同学で推進している専門教育と教養教育に共通する柱は、積極的な資格の取得である。例えばビューティメイクコース・ネイルクラスの場合。就職に有利な「JN EC ネイリスト

技能検定」など、卒業までに最大12種類のネイル資格を取得するカリキュラムを組んでいる。資格取得にこだわる理由を担当の太田慶子先生（舞台芸術コース兼任）は、次のように話す。

「短大で専門技術と言われても、『クラブ

活動程度で大したことない』と思う人もいます。それでは悔しいし、勉強する学生にもプライドを持つて技術の習得に本気になってもらいたいのです。『勉強した』ということをはっきりやすく相手に示すには、資格が一番だと考えます。履歴書に書ききれないほど資格を取得するため、別紙に一覧を作成する学生がほとんどです。実際に、就職面接では『頑張りましたね』と面接官に褒められるそうです。

履歴書に書ききれないほどの資格は狙い通り、面接官を圧倒しているようだ。

しかし「専門スキルの資格だけでは意味がない」と太田先生。「ネイルの技術があっても話し方がなっていない、文章が書けない、礼儀正しくないのでは社会で通用しません。特に、今の学生に足りないのは話す力と書く力です。そこで『サービスマン接遇検定』『ビジネス文書検定』『ビジネス電話検定』の三つのビジネス系検定を取り入れることにしました。これらの検定では、自分の言葉で相手に気持ちを伝えることが学べますし、メールやPCの変換機能に慣れてしまった学生に、漢字力を付けさせることもできます。『ビジネス系検定』と聞くと学生は難しく受け止めるようですが、社会人として必要な基礎力を付けるには最適だと思います。」

そうした狙いを実現するための場として、同学は平成18年度から、ビューティメイクコース、舞台芸術コース、保育士コースでは1、2年生の必修科目として「ライフデザイン演習I

「IV」を開設した。この科目は教養教育を実現する場であり、幅広い知識と教養を身に付け、自己の目的を実現できる女性を育成するのが大きな目的だ。授業は週に1コマで、通年の指導内容は担任の教員がそれぞれ構成するためコースによって多種多様だが、いずれもビジネス系検定などの資格取得のための指導や個人面談の時間を設けている。

「学生の多くは、専門スキルだけでなく教養も身に付けたいという希望を持って本学に入学してきました。一つの仕事のためのスキルはもちろん大切ですが、女性として豊かな人生を送るためには幅広い教養が必要だということを十分意識しているようです。ビジネス系検定で学ぶ内容がその助けになることを理解して、学生たちは真剣に取り組んでいます。」

ビジネスマナーの必要性を 自覚させる

今回、2年生の「ライフデザイン演習」の授業を見せてもらった。学生は、ビジネス文書検定の過去問題とテキストを机に並べて授業に臨んでいる。ビジネス系検定を通して社会人基礎力を育成するためにはどのような点を気を配っているのだろうか。

それにはまず「過去問題を数多く解くことが大切」と太田先生は話す。

「例えば、ビジネス系検定には、学生が普段の生活では使わない言葉がたくさん出てきます。

最新事情 ②5……… 堺女子短期大学

「ネイリストを目指して本学に入学しました。ネイリストといえど何となく派手で浮ついた印象があるかもしれませんが、私はその

『〜でございます』『申し上げます』『伺います』という言葉は聞いたことがあっても、実際に使う機会はあまりありません。使いこなせるレベルにまで持っていくために、とにかく過去問題を解き、具体的にどのような場面でのような言葉を使うのかを頭に染み込ませるのです。また、学生の実生活と検定の内容がどのようにつながるのかを、かみ砕いて説明します。就職面接のときや企業に電話するとき、検定問題をお手本にすれば感じのよい受け答えができると思います。学生たちは真剣に耳を傾けてくれますし、理解度も増します。『アルバイトでも気を付けよう』とか『これは失礼なことなのか』と発見があるようです。自分にとって必要な知識だと納得して学習させることが何よりも大切なのです。他人事では真剣に聞いてくれません」。学生はこの授業でビジネス系検定に挑戦することをどのように捉えているのだろうか。

ビューティメイクコース・ネイルクラス2

年生の井上野々香さんは、今年の6月に実施された「ビジネス電話検

定」知識B級に合格した。

ビジネス電話検定
知識B級に合格した
井上野々香さん



専門スキルの習得に励む学生たち
皆、真剣そのもの



イメージを覆し、きちんとした話し方や振る舞いができる、お客さまに信頼されるネイリストになりたいのです。ビジネス系検定は最初は難しい言葉ばかりで戸惑いましたが、テキストを読んで正しい言い方を学んだり、過去問題を解くうちに、自然と身に付いたように思います。クラス全員が『やるからには合格したい！』という雰囲気なので、検定直前は特に集中力が高まりますね」。

夢の実現のため、専門スキルと教養知識の勉

強に励む井上さん。ビジネス系検定の勉強の成果もあり、大手美容サロンからネイリストとして正社員の内定を受けた。

在学中に検定などの資格取得に挑戦することは、学生にとって大きなプラスになっている。2年間という短い時間の中で専門知識と教養知識を身に付けるのは、簡単なことではない。その厳しい環境の中で、挑戦し続ける彼女たちは着実に「生きる力」を身に付けているようだ。